

こころ医療福祉専門学校佐世保校
平成29年度第1回教育課程編成委員会議事録

【日時】平成29年5月28日（日）13:00～13:40

【会場】こころ医療福祉専門学校佐世保校 4階 会議室

【委員】出席：田中秀樹（長崎県柔道整復師会佐世保支部）

久貝博（長崎県鍼灸師会）、山頭正代（あんじゅ鍼灸院）

廣瀬典治、館川大輔、中村裕也、初村修平

欠席：井手浩二（いで整骨院）

（敬称略）

1 開会の辞（司会 館川大輔）

本会の開会目的及び配布資料の説明を行う。

2 委員の紹介（司会 館川大輔）

各委員の紹介を行う。

3 学校長挨拶（校長 廣瀬典治）

第1回教育課程編成委員会及び学校関係者評価委員会を開催する。日頃より本校の教育方針に深いご理解とご支援をいただき誠に感謝している。柔道整復科・健康鍼灸科の本校在校生101名は日々勉学、実技演習に精を出している。日本語科は49名の留学生が東南アジアから入学し、日本語の勉強に励んでいる所である。この委員会は平成26年4月からスタートした「職業実践専門課程」の認可に必要な委員会である。文部科学省の説明の中に目的を述べた部分がある。職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的として、実務に関する知識、技術及び技能について組織的な教育を実践している課程（又は学科）を文部科学大臣が認定して奨励することにより、専門学校における職業教育の水準の維持向上を図ることを目的とする。つまり、専門学校に関連性のある施設・企業と組織的に連携し、質の高い専門教育を行うことを目的としている。本日の委員会はその目的のための委員会となる。カリキュラムをより実践的で専門的なものにし、質の高い学生を送り出すために、忌憚のないご意見を願います。

4 柔道整復科（学科長 館川大輔）

（1）教育計画

まず平成28年度の報告をする。国家試験は24名中19名が合格し、合格率は79.2%。全国平均は63.5%となっている。卒業生24名中22名が就職した。就職していない者が2名おり、その内1名は整形外科への希望が強い。もう1名は、まず空手の選手として大会に取り組むとのことで、今年いっぱいには就職しないとのことだ。就職先の内訳は整骨院が9割となっている。県内85%、県外15%だ。

今年度の学生の内訳は全部で77名。1年生は18名で、男15名・女3名。2年生は23名で、男19名・女4名。3年生は36名で、男29名・女7名。各担任による定期的な個人面談を実施し、学年末までに学力の確認を行う。授業について、1年次は基礎、専門基礎、専門教科。2年次は専門基礎、専門教科各論。3年次は実技試験、国家試験対策に力を入れる。受験生は月に1回、模擬試験を行っており、放課後は補講を実施。夏季・冬季・秋季に特別補講を実施している。また、質問しやすい環境作りに努めている。

カリキュラムは昨年と同じで変更はない。改善点は3つ。①認定実技へ向けた実技の授業を行う。臨床現場での処置の仕方等教えていく。②国家試験合格率を上げるため、放課後補講に力を入れている。③トレーナー部に力を入れている。認知してもらうため、外部活動時に帯同する。今年度は3か月ごとに学生の技術取得度を図る。

(2) 質疑応答

田中) 平成30年度のカリキュラム変更で、どのように変更したのか。

舘川) 2450時間・85単位が現カリキュラムだが、それを2750時間・99単位以上に変更する事が厚生労働省より通知が来ている。3・4・5限目すべてが1時間半の授業になる。

田中) 年々学生数が減っているが、学生募集はどうしているのか。

舘川) 専門学校を選ばないという選択が増えているのではないかと感じる。認知を広めるためにトレーナー部活動を行っている。現在、佐世保の高校2校、佐賀の1校で活動している。4月下旬に長崎校の広報課より職員が佐世保校へ来たため、力を入れているところだ。

田中) 就職倍率はどれくらいか。

舘川) 学校に求人票が来ている分での判断だが、平成28年度の求人倍率は、県内3倍、県外で1.1倍となっている。個人よりグループ展開している整骨院からの求人が多い。長崎、福岡、宮崎などは個人からも来ている。

田中) 学生が就職に求めるところは個人によって違うのか。以前は技術を学ぶことを目的とする学生が多かった。

舘川) 8、9割方は条件等で選んでいるように感じる。学生からの相談時に、就職する際に何を求めているのかを聞くようにしている。県外への就職希望者は意欲的で、症例や技術について学びたい者が多い。

田中) 就職していない卒業生の中に整形外科希望の学生がいたが、そういう学生の佐世保市内で整形外科への就職は難しいのか。

舘川) 実際難しい。都市の方では若干求人はあるが、佐世保では求人票も来ない。

田中) トレーナー部は教員が帯同するが、学生が実際に触ることはあるのか。

舘川) トレーナー部の活動は、地域のスポーツ大会と高校の部活動でのケガの処置や予防トレーニング等の指導を行っている。学生は地域のスポーツ大会等のボランティアで触っているが、高校の部活動は見学やサポート程度だ。

田中) これからの施術で信用を得ていくしかない。

5 健康鍼灸科 (学科長 中村裕也)

(1) 教育計画

①国家試験、②在學生、③卒業生の大きく3つある。募集停止で今年度の新入生はなし。平成30年度に学生が卒業すると閉科になるため、卒業生の今後のサポートを考えている。

①国家試験の合格率の全国平均は、はり師67%、きゅう師67.7%で難しくなってきた。佐世保校の合格率は、はり師70.5%、きゅう師76.4%。平均は上回っているが、良い出来ではないため、指導を行っていく。一学年少なくなったため、密に指導ができるのではないかと考えている。

②学科閉鎖による在學生のモチベーションを意識していたが、それぞれの目標に合わせて頑張っている。学業や生活の悩みを担当が聞き、退学者を出さない取り組みをしていく。実技科目については、臨床の場を設け、臨床のイメージを持ってもらう。

③卒業生は2期生が出た。長崎に留まっている卒業生は約半分。今年度、卒業生会を立ち上げている。教員がいなくなった場合のサポートがどうなるのかを危惧している。佐世保校教員がセミナーを実施するのは難しいが、卒業生会を卒業生主体で運営してもらい、会場の貸し出し等のサポートを考えている。卒業生が学びやすい環境を作りたい。

(2) 質疑応答

山頭) 卒業生へのサポートとして教室を貸していただけるということで、安心している。

校長) 卒業生同士の繋がり、悩みを相談する場としてできる限り対応していきたい。

6 閉会の辞 (司会 舘川大輔)

以上で本委員会を終了する。